

# 日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 - 5842 - 6031 2019年  
FAX：03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 10月29日発行

## 【岩手】高校正門前で「ヒバクシャ国際署名」行動

### 国連軍縮週間 初めて高校生がボランティアで行動に参加



「ヒバクシャ署名岩手の会」は国連軍縮週間の10月28日夕方4時から、盛岡市内の県立盛岡第四高校正門前で「ヒバクシャ国際署名」にとりくみました。市内の高校では8校目のとりくみです。

当日は県生協連、被団協、原水協から21人、原水協からは9団体18人が参加しました。事前に高校生が参加すると聞いていたので、行動参加者はいつもより多かったです。今回も事前に高校に署名行動の連絡はしていましたが、「生徒がボランティアで8人ほど参加しますのでよろしく」と連絡があった時は初めてのことで驚きました。

下校時に自転車で出てきた生徒も署名に応じてくれて正門前はちょっとした人だけでしたが、「これから生徒も参加しますので」と先生が10人ほどの制服姿の生徒さんを紹介されたときは本当に驚きました。急いで署名板を生徒さんに渡しました。私たちは校門の外でチラシを配り、対話しながら署名を訴えると「合唱コンクールで歌う曲を理解するために、広島のことを調べた」、日本政府のことを話すと「それはおかしい。日本は被爆国なんだから考えた方がいい」などと話してくれました。

校門の中で生徒さんたちが輪を作ってチラシを見ながら対話、署名を集める光景にほっこりした気持ちになり、今までにない署名行動でした。

秋の夕暮れ時の日没は早く「部活の生徒は下校が遅いですよ」とのことで、4時半には終了。被爆者の会と生徒30人ほどが輪を作って署名数を集約。県被団協の三田健二郎副会長が「私は小学2年の時に広島で被爆した。被爆者の願いは一つ、核兵器は絶対ダメ、みなさんの署名が大きな力になります」と生徒さんたちに感謝しました。30分で123人の署名が寄せられました。

岩手県原水協は10月20日、第2回理事会で署名に力を入れることを確認しています。今回、若い世代と直接対話しながら行動できたことで、2020年NPT再検討会議までに県目標20万人分をめざす署名のとりくみに大きな励みになりました。

### 北上・和賀地区原水協の署名行動に世界大会代表も参加

北上・和賀地区原水協は24日、国連軍縮週間行動として「ヒバクシャ国際署名」にとりくみました。9月、10月と原水爆禁止2019年世界大会代表が参加しました。6人で行動し、44人分の署名が寄せられました。（岩手県原水協事務局長・小笠原和子）